

1. 研究課題名：都市型 PM2.5 の高濃度化現象の原因解明と
常時監視データ補正法

2. 研究代表者氏名及び所属：

長田 和雄（名古屋大学大学院環境学研究科）



3. 研究実施期間：平成 28～30 年度

4. 研究の趣旨・概要

関東や東海などの大都市域では PM2.5 の年平均濃度が高く、発生要因の解明が必要とされている。しかし、都市域での二次生成や港湾部から輸送されてくる PM2.5 の実態は、未解明のままである。また、大気環境常時監視局における PM2.5 濃度の 1 時間値についても検討が必要とされている。

そこで本研究では、関東と東海で湾岸部と内陸部の 2 箇所ですべての各種マーカー成分データを取得することにより、都市型 PM2.5 高濃度現象の実態を把握し、発生源寄与割合の推計精度向上に必要な科学的知見の充実を目指す。さらに、非集積的な手法を用いて、常時監視局で測定される PM2.5 濃度の 1 時間値の解釈を補助する手法を検討する。

5. 研究項目及び実施体制

- (1) ガス状・粒子状のアンモニアと硝酸に関する研究
(名古屋大学)
- (2) 濃尾平野の都市型 PM2.5 発生要因に関する研究
(名古屋市環境科学調査センター)
- (3) 関東平野の都市型 PM2.5 発生要因に関する研究
(東京都環境科学研究所)
- (4) PM2.5 質量濃度を与える吸湿性粒子の影響評価
(東京理科大学)

6. 研究のイメージ

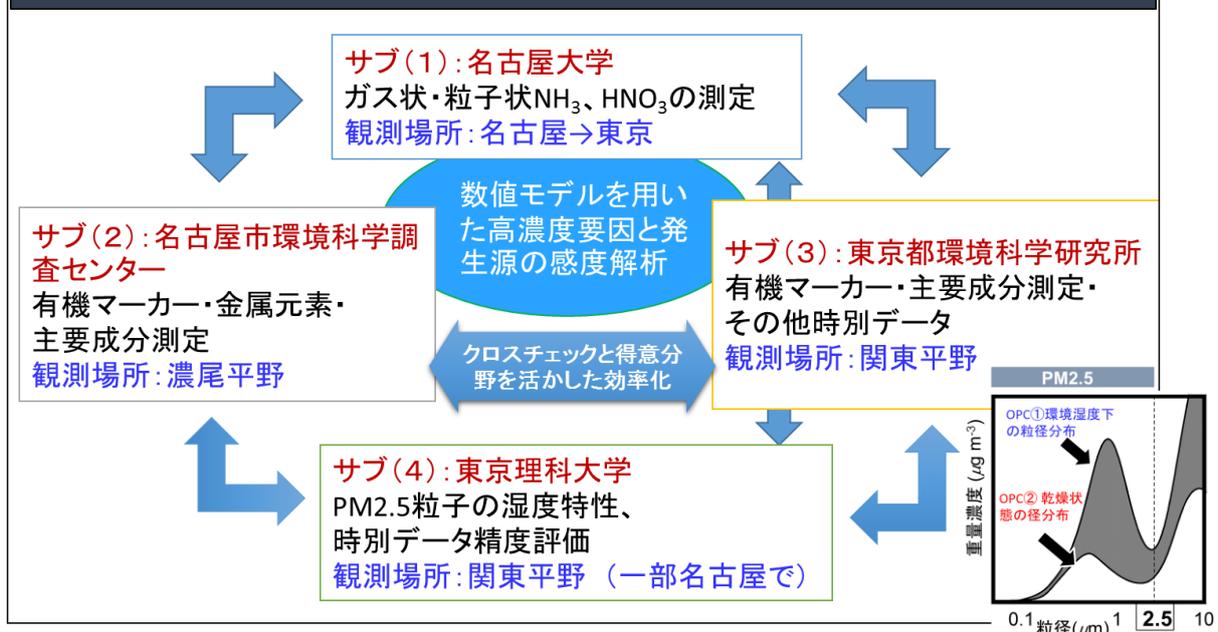
夏季の高濃度



冬季の高濃度



都市型PM2.5の高濃度化現象の原因解明と常時監視データ補正法



＜3年後の達成目標(行政ニーズへの貢献)＞

- ・都市型PM2.5高濃度イベントの発生要因の解明
- ・特別PM2.5濃度測定への準リアルタイム補助手法の提案